

編集後記

今月号の特集は「新生児医療—最近の話題」です。新生児医療をさまざまな視点から捉え、小児科医に必要な最新の情報を、小児科、新生児科、放射線科、外科の第一線で御活躍中の先生方にご執筆いただくことができました。「人体の設計図」である遺伝子に始まり、「胎児」「新生児」まで連続した時間軸で新生児医療の最新的话题をお届けします。

与田先生には胎児超音波診断について御執筆いただきました。超音波技術や精度の向上により胎児超音波検査ではさまざまな異常が検知されるようになりました。胎児診断された胎児、そしてご家族とのかかわりにおいては、産婦人科だけでなく小児科も多くの役割を果たす必要があります。海外の動向を含めて、小児科医にとって必要な胎児超音波検査の最新知見が具体的な疾患の紹介とともに分かり易く解説されています。

画像診断の有用性は、胎児期だけでなく新生児期においても増えています。細川先生には外科疾患の画像診断について御執筆いただき、事前の画像診断が外科的治療の侵襲性を左右する代表的疾患について、小児科医も知っておくべき知識を整理して頂き

ました。窪田先生には、消化管穿孔の外科治療について、臨床的な内容のみならず、壊死性腸炎の発症における Toll-like receptor の免疫学的関与など、基礎研究の知見も含めた話題をご紹介頂きました。

新生児医療における基礎研究の臨床応用は、今や新生児の網羅的遺伝子診断にまで及んでいます。武内先生は、新生児集中治療室に入室する重症新生児のうちの5~10%が遺伝的背景をもつこと、それらのリスク因子を全ゲノム解析により早期に特定できれば、早期治療に役立つ可能性について言及されています。

新生児医療においては他の診療科の先生方との情報共有がとくに重要です。遺伝子診断・胎児診断・出生後診断された児とご家族へのかかわりには、産婦人科、新生児科、小児科、外科、そしてコメディカルの方々が一丸となって取り組む必要があるという与田先生のメッセージが印象に残りました。

世界最高水準にある日本の新生児医療が、多様性のある最新の技術と医療連携によりいっそう発展していくことを期待しています。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第60巻 第13号 12月号
2019年12月1日発行（毎月1回1日発行）
定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金
定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
Fax 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。